

「学校・茶の湯・出会いプロジェクト」実施要領

1. 趣旨・目標

日本の道徳観や美的感覚、生活を彩り他者をもてなすための創意工夫が学べる「茶の湯（茶道）」体験を提供することにより、子どもたちの豊かな心や創造性を育むとともに、先人から受け継がれてきた文化の心を次世代に継承することを目的としています。

2. 対象

京都市立を除く、京都府内の小学校（支援学級を含む）、府立特別支援学校（小学部以上）、教育支援センター（適応指導教室）

※支援学級のみでの実施可。

3. 対象となる科目例

社会、生活、図画工作、道徳、家庭、外国語、その他（総合的な学習の時間）等

※授業での実施が困難な場合は、クラブ活動等での実施も可能です。

4. 派遣講師について

学校が希望する流派・茶道家 等

※原則、体験に必要な茶道具類（人数分の茶碗・風炉・掛け軸等）は講師等が準備します。そのため、希望される講師がおられる場合は、事前に講師に道具類の有無をご確認ください。道具の準備が困難な場合は、希望調書をご提出前に京都府へご相談ください。

※講師の希望がない場合は、本事業にご協力いただく流派から推薦を受けた茶道家を府から派遣します。
※茶道家等は茶の湯体験の講師として派遣します。体験中の児童生徒の指導は担当教員が対応ください。

5. 実施可能な時期

6月下旬～2月末

※3月以降に実施を希望される場合は、事前に必ず京都府までご相談ください。

※1月は茶事「初釜」があるため、講師のスケジュールが合わない可能性があります。ご注意ください。

6. 実施回数・人数

回数：各校1回（クラスごとの実施可能）～

人数：1回 約35名まで

※複数クラスの場合、実施時間をずらす等、実施方法を調整します。

※予算の範囲内で、講師のスケジュールが合えば、複数回の実施も可能です。

7. 所要時間

基本：1クラス 90分程度（2コマ分）～

※児童生徒がお茶を点てる体験等、希望内容に応じて所要時間は変動します。

8. 実施場所

各学校の教室（家庭科室・茶道室・活動教室 等）等

※近くに水場のある教室を推奨します。

※学校の希望により地域内の施設等での実施も可能です。ただし、会場の確保及び使用の手続きは学校で行ってください。また、移動に要する経費は本事業の対象外となります。

9. 準備物（学校）

① 茶席用の教室（特別教室1部屋）

※畳やマットレス教室が推奨ですが、椅子と机の教室でもできる「立礼式」^{りゅうれい}での実施も可能です。
※体験中は飲食を行いますので、事前の掃除をお願いいたします。

② 水場のある特別教室、又は水屋（給仕スペース）を作るためのパーティション等。

③ 飲み水（お茶用、釜のお湯に使用します。水道水可）

※内訳：お茶用1人前60ml×人数分、茶碗保温用：お茶用と同量、釜の湯3L

④ お湯

※③を沸かしたものを。

⑤ お湯を沸かす設備

※給湯器、コンロ、電気ポット、延長コード等

⑥ 講師・スタッフ用の駐車場、荷物運搬用の台車

⑦ その他、茶器消毒用のアルコール類、掛け軸をかけられる備品（ホワイトボードなど） や花入れの台になる備品など、茶席のしつらえに使える備品類等

10. 実施決定後の流れ（適宜学校・派遣講師の間にコーディネーターが入る場合があります。）

① 打ち合わせ日、実施日の決定

派遣講師と打ち合わせ日と実施日をご調整ください。確定後、必ず京都府までメールでご連絡ください。なお、打ち合わせ日は、実施予定日のおおむね1～2ヵ月前を目途に設定ください。

② 派遣講師と事前打ち合わせ

「打ち合わせ確認シート」をもとに、体験内容のすり合わせ、使用教室の確認、実施日当日の流れ等を講師等と相談し確定してください。

③ 事業計画書の作成

打ち合わせ内容をもとに、事業計画書を作成し、メールで京都府までご提出ください。

④ 事前準備

体験に使用する教室の掃除をお願いいたします。また、前日又は当日の実施時間前に道具類等の搬入の補助、当日はお湯の準備をお願いいたします。

※事前準備は、茶席の設営、お湯の準備のため2時間程度要します。そのため3時間目以降の実施を推奨。

⑤ 体験中

導入（学習のねらい、講師紹介等）、体験中の児童生徒への声かけ等の補助、報告用の写真撮影、体験のまとめをお願いします。

⑥ 事後作業

道具類の片付け、搬出作業（荷物運搬）の補助をお願いいたします。

⑦ 報告書作成

事後調査票（Forms）を入力し、事業完了報告書をメールで京都府にご提出ください。

茶の湯体験の実施例（基本メニュー）

「茶の湯」の世界へようこそ！ お茶会に参加しよう！

学校の教室等をお茶席に設え、身近でありながら特別な空間となった教室等で、子どもたちを心からもてなす「お茶会」を実施。五感を通して講師の心からのもてなしを体感することにより、茶の湯に息づく日本の生活文化の豊かさ、奥深さ、茶の湯の「こころ」について学ぶプログラムです。

実施回数	各学級 1 回（茶会体験）
所要時間	2 コマずつ（90 分程度）
人数／学級数	1 クラス約 35 名まで
実施場所（例）	多目的室 ※カーペットの教室。水屋はパーティションでスペースを確保して実施。
実施内容（例）	<ol style="list-style-type: none"> ① 導入（学習のねらい、講師等の紹介）（5 分） ② 講義（茶道の歴史、茶の湯の「こころ」など）（10 分） ③ 席入り。礼儀作法のレクチャー（10 分） ④ お茶菓子をいただく（10 分） ⑤ 講師の点てたお茶（薄茶）をいただく（10 分） 休憩（10 分） ⑥ 茶碗等の茶道具鑑賞。もてなしの表現を学ぶ（10 分） ⑦ 2 人 1 組で互いにお茶を点て合い、もてなし合う体験（25 分） ⑧ まとめ（感想の発表、質疑応答、学習のまとめ）（10 分）
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容はあくまで例です。茶会体験以外に、点て方体験等も実施可能です。 ・ 実際の体験内容は事前打合せを行い、各学校の要望や状況に応じて変更を加えていきます。基本メニュー内の時間配分も調整可能です。 ・ 既に類似の体験を実施している場合は、本事業を活用して既存の体験を実施することも可能です。

▼座礼式でのお茶会の様子



▼講師の点てたお茶をいただく体験



▼茶道具鑑賞の様子



▼立礼式でのお茶会の様子



▼児童生徒がもてなし合う体験



▼水屋（パーティションで仕切る場合）

